

参考様式
平成30年度市町の挑戦支援加配 中間報告書

尾道市立向島中学校

【名 称】	【尾道市立向島学校】 国際理解教育推進プログラム開発加配～異文化交流活動を通して～
【成果指標】	<p>(計画書目標値)</p> <p>①標準学力調査の結果(英語) 目標値 80%以上 ②英検3級以上取得率(3年生) 目標値 63%以上 ③「外国の人と積極的にコミュニケーションを図りたい」という生徒の割合 目標値 75%以上 ④国際理解に対するアンケートに肯定的に答える生徒の割合 目標値 70%以上</p> <p>(達成状況)</p> <p>①平成30年度標準学力調査(英語) 未実施(平成31年1月実施) ②英検3級以上取得率(3年生) 33.8%(平成30年度第一回英語検定結果発表時点) 平成29年度 英検3級取得者(3年生) 21.3%(平成29年度第一回英語検定結果発表時点) ③「外国の人と積極的にコミュニケーションを図りたい」という生徒の割合 79.0%【5月】→85.7%【7月】 ④国際理解に対するアンケートに肯定的に答える生徒の割合 ・異文化について興味をもっている 81.9%【5月】→87.6%【7月】 ・将来留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思う 39.0%【5月】→33.3%【7月】 ・自分の国の文化について外国の人に話をしてみたいと思う 68.6%【5月】→69.5%【7月】</p>
【分析】	<p>①標準学力調査に関する分析・・・平成30年1月に実施し、本年度の取組を検証していく予定である。 ・昨年度の課題や定期テストから見えてきた課題(接続詞を使いまどまりのある文章を書くことと、長文の内容を読みとることに課題)を克服するために、授業の開始時に帯学習として、まどまりのある文章を読み取る活動を行い、長文の中からキーワードを見つけ、早く、正確に読み取る力を身につけさせる活動を行っている。また、日記や、自分の意見を「代名詞」・「接続詞」を用いて適切に書く練習を学期に2回以上行い、既習事項を繰り返し復習できる機会を設けた。まず、前年度の基礎・基本定着状況調査(英語)を9月に実施し、中間の検証を行いたい。</p> <p>②英検3級以上取得率(3年生)に関する分析 1学期に行われた英語能力判定テストの結果では、3級以上の実力があると考えられる生徒の割合は55.1%、4級以上の実力があると考えられる生徒の割合は36.4%だった。3年生の第一回英語検定結果では目標値を下回っているが、4級以上の実力にとどまっている生徒への支援を充実することにより、第2回英語検定では目標の63%以上に近づくことができると考える。</p> <p>③「外国の人と積極的にコミュニケーションを図りたい」という生徒の割合に関する分析 5月調査の結果は79.0%の数値が7月調査では、85.7%となり、肯定的な意見の生徒の割合が増えた。これは、昨年度は総合的な学習の時間の取組の一環として行ってきたインターナショナルデイを英語科として行うよう見直し・改善を図ったこと。また、学期に2回行った台湾の生徒とのスカイプ交流が効果的であったと考えられる。7月に予定し、準備をしていた金門縣中学校との交流が天候悪化のため直前に中止となった。これも数値上昇に影響があったと考えられる。</p> <p>④国際理解に対するアンケートに肯定的に答える生徒の割合に関する分析 ほとんどの項目で肯定的に答える生徒の割合が多いが、「将来留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思う」という項目において5月39.0%、7月33.3%であった。国際的な仕事にどんなものがあるのかを詳しく知らない生徒が多いことや英語の力に自信がないことが影響していると考えられる。また、総合的な学習の時間の単元開発の途中であるため、本格的な実践が二学期以降になるため特に1年生の数値が低くなっていると考えられる。</p>
【課題】	<p>①標準学力調査に向けての課題 まどまりのある文章を読む活動は帯学習を引き続き継続させていく。2学期は、接続詞・代名詞を使いまどまりのある文章を書く練習の回数を増やしていきたい。そのために、英文の語順を意識し、毎日の家庭学習において語彙力を高めていくことが、今後必要であると考え。小学校との連携はもちろん、教師の指導力向上を図るため、広島県立尾道東高等学校指導教諭多賀先生に來校頂き、指導を仰ぐこと。横浜南高等学校附属中学校の英語教育の視察研修を行い自己研鑽を積むことも必要である。</p> <p>②英検3級以上取得率(3年生)に関する課題 本校が今まで取組(英語能力判定テストに向けた英検の過去問の繰り返しや類似問題を新出文法を定着させる際にワークシートに載せ、英検を意識した問題に触れる機会を意図的に設定するなど)を継続させていくことや読解分野の数値が低い事への対策として、多くの語彙を習得させ、そして、モデルの文章から自分の知っている単語に言い換えて表現するプロダクションを取り入れていく。二次試験対策においても、計画的にALTを活用し応答の仕方を定着させたい。</p> <p>③「外国の人と積極的にコミュニケーションを図りたい」という生徒の割合に関する課題 ④国際理解に対するアンケートに肯定的に答える生徒の割合に関する課題 ・できるだけ多くの外国の「人・もの・こと」に出会わせていく機会を持つことが必要であると考え。 ・2学期以降は、スカイプだけではなく、台湾の学生と電子メールを行い「書く」ことを通じてのコミュニケーション力もつけていきたい。 ・総合的な学習の時間のプログラムの開発については、教職員の研修が必要である。本年度は、教育センターの「学校チャレンジサポート」を受け、総合的な学習の推進チームを中心に研修を受けながらプログラムの開発を行っているが、まだ道半ばである。三年間の体系的なプログラムを作成する。</p>
【計画】	